

特別支援学級 国語科学習指導案

日 時 平成30年9月26日(水) 5校時
 児 童 1年男子(1名) 2年男子(1名)
 4年女子(1名) 計3名
 指導者 中川 真理子
 支援員 岩城 恵

1 単元名 ことば遊びをしよう

参考教材名 「すきなもののクイズをしよう」 東京書籍 新しい国語1年下巻P52～57
 「ことばあそびうたをつくろう」 東京書籍 新しい国語1年下巻P58～61
 「いろんなおとのあめ」 東京書籍 新しい国語2年上巻P102～103
 「文の組み立てを考えよう」 東京書籍 新しい国語4年上巻P108～109

2 単元について

(1) 児童観

本学級には、3名の児童が在籍している。どの児童も概ね学習に前向きに取り組むことができる。学習内容は、基本的にどの児童も該当学年の教科書の内容で進めているが、語彙が少なく、様々な言語活動に苦手意識が見られることが課題である。そのため、語彙力を高めるための学習として本の読み聞かせやかるた遊び、詩の音読などを一緒に行うようにしているが、日常的には教科書中心の個別学習が多い。異学年で一緒に学習するよさを感じさせるために、作文や音読など学習の成果の発表をし、お互いのがんばりを認め合う場を意図的に設定するようにしている。3名が同じ単元を一緒に学習したことは、1学期の「おすすめの本を紹介しよう」の単元のみである。

本単元にかかわる個別の実態は、次の通りである。

	話す・聞く	読 む	書 く
A児 1年 男	<ul style="list-style-type: none"> 短い言葉ではあるが、感想や考えを話すことができる。 長い話を聞くことは難しいが、「分からない」と伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての文章や知らない言葉は1文字ずつ読むが、慣れると上手に読むことができる。 読み聞かせは好きで、絵を見ながら集中して聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな50音は、ほぼ書くことができる。 対話しながら、文章を書くことができる。 「あいうえおのうた」を指導者と一緒に作ることができる。
B児 2年 男	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童の発言を参考に自分の考えを話すことができる。 思うように話せず、黙り込んでしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線や地図が載っている本を好んで読む。家庭学習として読書を位置付けている。がまくんシリーズに興味をもち始めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当学年の漢字を使って文章を書くことができる。 経験したことは自分で書くことができる。感じたことについて、対話しながら書くことができる。

C 児 4 年 女	<ul style="list-style-type: none"> ・他の児童の発表に対し、よいところを見つけて話すことができる。 ・不安な気持ちが大きく、思うように話せないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざ、だじゃれなど言葉に関心があり、言葉のおもしろさを感じることができる。 ・読書は好きで、色々な種類の本を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中で習った漢字を使うことは難しいが、該当学年の漢字も繰り返し練習することで書くことはできる。 ・意味が通じないところがあるが、自分の言葉で文章を書くことができる。
-----------------------	--	--	--

(2) 教材観

児童の実態に応じ、基本的に小学校の学習指導要領に沿って進めている。本単元は、小学校学習指導要領・国語 第1・2学年における「A話す・聞く(1)オ」「B書くこと(1)ウ」を受けて設定しており、「話すこと・聞くこと」の「話し合う」の系統として位置付けられている。出題・質問・応答の活動を通して、一人一人が互いの話を集中して聞き、話題に沿って質問したり質問に答えたりして話し合う力を身に付けることをねらいとしている。また、第3・4学年における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(キ)」「B書くこと(1)オ」を受けて設定しており、「文法」の系統として位置づけられている。主語・述語・修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成をとらえることをねらいとしている。

本単元は、児童が興味を示しやすいクイズを通して、適切に話す力を育てようとするものである。正しい答えにたどりつくために、相手に分かりやすく話そうとしたり、話し手の言葉を集中して聞こうとしたりして懸命に考える中で、相手を意識した「話す」「聞く」活動を自然に展開していくことができると考えた。

また、児童の実態から言葉や文字に対しての関心を高め、自分の考えや気持ちを話したり、書いたりすることができる土台を作る必要があると感じた。個々の実態に応じることができるよう、教材を選択しゲーム化するなどの指導方法を工夫すれば、意欲をもって取り組むことができるようになるであろうと考え、本単元を構想した。友達とともにことば遊びをする場を設定することによって、発語を増やし、言語活動の基礎的な能力を養うとともに、学ぶ楽しさも味わわせたい。

(3) 指導観

本単元を指導するにあたっては、次の3点に留意する。

① ねらいを明確にした言語活動の工夫(視点1)

本単元は、3人で同じ単元の学習をするため、授業始めの活動を一定の流れにし、安心感を与え、学級全体で学ぶことの楽しさを感じられるように単元・授業構成を行っていく。

本単元のゴールは、ことば遊び大会をすることである。様々なことば遊びをし、ことば遊びの仕組みについて理解していく。そして、各自が選択したことば遊びの問題を作り、お互いに出題・質問・応答のやり取りを行うことば遊び大会を単元の最後に位置付ける。先生方と一緒にことば遊び大会をすることを伝え、意欲が持続できるようにしていく。

第一次では、指導者が作成したことば遊び大会を開く見本を提示する。指導者と支援員が出題・

質問・応答のやり取りをしながらことば遊びをしている様子を見たり、一緒にことば遊びをしたりする。様々なことば遊びを知ることで、「おもしろそう。」「やってみたい。」という意欲や学習の見通しをもたせたい。また、ことば遊び大会で出題する問題の見本を提示し、ことば遊びのやり方の説明の仕方や問題の作り方などのイメージをもたせる。

第二次では、ことば遊びの仕組みについて理解し、ことば遊びに必要な言葉を集める。指導者が提示することば遊びは、それぞれの学年に応じて教材を組んでいるが、本単元については、学年ごとの指定にするのではなく、選択させることで学習意欲を喚起させたい。

第三次では、児童が作成したことば遊びを先生方と行うことば遊び大会を開き、感想を交流する。

② ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導方法の工夫（視点2）

毎時間、学習の流れを掲示し、視覚的にとらえやすくする。また、単元計画表を掲示し、学習の見通しをもたせる。単元の導入では、ことば遊びに関する本を紹介したり、実際に、指導者と支援員がことば遊びをやってみせたりすることで、ことば遊びのイメージや学習の見通しをもたせる。児童がことば集めをする段階では、絵やことば遊びの本、図鑑、教科書などを参考にし、一人でも集めることができる手立てを組んでいく。気持ちを表すことば集めでは、共通の出来事などを思い出させ、体験と結び付けさせたり、絵カードを参考に言葉を考えさせていく。自分が選択したことば遊びの問題を書く段階では、ヒントボックスを活用して、五感を活かした言葉を交えながら当ててほしいものの特徴を問題文のヒントとして出題できるようにする。ことば遊び大会では、ヒントボックスを活用して、クイズを出題したり質問のやりとりをしたりする。

③ 児童の振り返りの工夫（視点3）

児童の振り返りは、以下の4つを設定する。

ア 学習して分かったこと

イ 学習してできたこと

ウ 友達ががんばっていたこと

エ 次にやってみたいこと

これらの観点や話型を示すことで、話すことの抵抗感を少なくし、学びを振り返ることで、自己肯定感を高めていきたい。

3 指導計画(全7時間)

次	時	学 習 活 動
一	1	<p>単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が提示することば遊びを一緒にやる。 「わたしはだれでしょうクイズ」・・・いくつかの条件から連想する。 「何の音ゲーム」・・・音を表す言葉が何の音か質問や応答をしながら当てる。 「どんな気持ちカルタ」・・・気持ちを表す言葉を使った読み札，表情の絵札を作る。 「ことばのパズル」・・・主語と述語でできた文をばらばらにする。 ・見本を見た感想を交流し合う。 ・色々なことば遊びをやる中で，遊び方を知る。
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ことば遊びの仕組みを知る。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を参考に，ことば遊びの遊び方を確認する。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択したことば遊びに必要な言葉を集める。
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ことば遊び大会で行うことば遊びの問題を作る。 ・自分が選択したことば遊びの問題を作る。
三	6	<p>ことば遊び大会の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表・質問の仕方を話し合う。 ・ことば遊びの問題を出す練習や質問に答える練習をする。 ・やり方を説明する練習をする。
	7	<p>ことば遊び大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択したことば遊びの問題を先生方で行う。 ・友達のことば遊びの問題に興味をもって聞く。 ・感想を発表し合う。

4 指導目標と評価規準

	目 標	評価規準
A 児 1 年 男	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で，恥ずかしがらずに相手に伝わるように発表することができる。 ・問題やヒントなど，相手の話を最後まで集中して聞くことができる。 ・ことばに関心を持ち，自分が選択したことば遊びについて，楽しんで問題を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりはっきりした声で発表している。 ・相手の話を最後まで集中して聞いている。 ・聞き終わってから質問をする。 ・ことば遊びに関心を持ち，自分が選択したことば遊びについて指導者と一緒に書いている。

B 児 2 年 男	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で、恥ずかしがらずに口形に気をつけて、ゆっくり大きな声で発表することができる。 ・相手の話の大事なことを落とさないように、目的意識をもって聞くことができる。 ・自分が選択したことば遊びについて、分からないことを質問しながら、問題を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口形に気をつけて、話す速さや声の大きさを考えて発表している。 ・大事なことをおさえて友達の話最後まで聞いている。 ・ことば遊びの仕組みを理解し、自分が選択したことば遊びについて手順表をもとに問題を書いている。
C 児 4 年 女	<ul style="list-style-type: none"> ・発表練習を通して、みんなの前で自分が書いたことば遊びについて発表することができる。 ・質問・応答のやりとりを意識して、必要感をもって聞くことができる。 ・自分が選択したことば遊びの問題を書き、語彙を増やすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く人の方を見ながら、相手に伝わる声の大きさを発表している。 ・ヒントの内容を捉え、質問したり、応答したりしている。 ・手順表を見ながら、自分が選択したことば遊びについて書いている。

5 本時の指導(5/7)

(1)目標

- A児 1年 自分が選択したことば遊びの問題を指導者や支援員と一緒に書くことができる。
- B児 2年 自分が選択したことば遊びの問題を見本や手順表を見たり、質問したりしながら、書くことができる。
- C児 4年 自分が選択したことば遊びの問題を見本や手順表を見たり、指導者と対話しながら書くことができる。

(2)本時の評価規準と具体の支援

	評価規準	支援
A 児 1 年 男	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択したことば遊びの問題を楽しみながら書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本をもとに、指導者等と対話しながら書かせる。 ・一つ一つの活動が雑にならないように、見直ししながら取り組ませる。
B 児 2 年 男	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選択したことば遊びに必要な言葉をもとに、問題を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本や前時に集めたことば遊びに必要な言葉から選択させ、問題を書かせる。 ・なるべく自力で取り組むことができるように手順表を示す。 ・緊張して取り組めない場合には、いくつか例を挙げたり、ヒントボックスを活用させたりして、書けることを実感させる。

C 児 4 年 女	<ul style="list-style-type: none"> ・当ててほしいものの特徴に気付き、自分が選択したことば遊びの問題を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して学習できるように、できていることをほめる。 ・気がそれてしまうときは、パーテーションで区切り、集中できる環境を整える。 ・見本や前時に集めたことば遊びに必要な言葉を参考に問題を書かせる。 ・なるべく自力で取り組むことができるように手順表を示す。
-----------------------	---	--

(3) 展開

段階	学習内容	学習活動		
		指導上の留意点と評価 (◇) 研究の視点 言 ユ 振		
導入 10分	1 学習の流れを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の流れを見てどんな学習をするか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ユ 学習の流れを掲示し、視覚的にもとらえやすくさせる。 </div>		
	2 かるたをする	<ul style="list-style-type: none"> ・かるた遊びを通して一緒に学習に向かう雰囲気をつくる。 		
	3 本時の学習課題を確認する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ことば遊びの問題を作ろう。 </div>		
展開 30分	4 自分が選択したことば遊びの問題を書く	A児 男 (右側)	B児 男 (左側)	C児 女 (中央)
		① 支援員と一緒に作り方を確認する。 ② 自分が選択したことば遊びの問題を書く。	① 手順表を見て作り方を確認する。 ② 自分が選択したことば遊びの問題を書く。	① 見本をもとに、作り方を確認する。 ② 自分が選択したことば遊びの問題を手順表や見本をもとに書く。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ユ 見本を準備し、イメージをもたせる。 </div>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 言 各自が選択したことば遊びの問題を意欲的に作成できるようにさせる。 </div>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ユ 手順表を用意し、なるべく一人でも書くことができるようにさせる。 </div>		
		③ 見直しをする。 ④ 進み具合を確認し合う。 ⑤ 問題の続きを作る。	③ 見直しをする。 ④ 進み具合を確認し合う。 ⑤ 問題の続きを作る。	③ 見直しをする。 ④ 進み具合を確認し合う。 ⑤ 問題の続きを作る。

